

**製品名: CBG ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab08036**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,ELISA
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	54-58kDa

**抗原情報**

遺伝子名	GBA3
別名	GBA3; CBG; CBGL1; Cytosolic beta-glucosidase; Cytosolic beta-glucosidase-like protein 1
遺伝子 ID	57733.0
SwissProt ID	Q9H227
免疫原	抗血清はヒト GBA3 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 291-340

**背景**

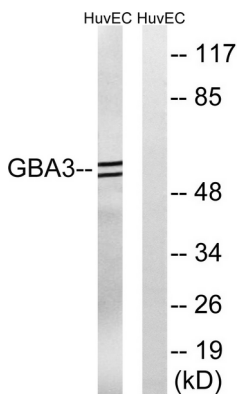
この遺伝子によってコードされるタンパク質は、数種類の配糖体を加水分解できる酵素です。この遺伝子は多型性偽遺伝子であり、最も一般的なアレルは全長タンパク質をコードする機能的アレルです。参照ゲノムアレルに代表されるように、一部の個体は一塩基

多型を有し、その結果コード領域に未熟な終止コドンが生じます。そのため、このアレルは機能的な全長タンパク質を生成できないため偽遺伝子となります。この遺伝子の選択的スプライシングにより、複数の転写バリエーションが生じます。 [RefSeq 提供、2013年3月],触媒活性: 末端の非還元性  $\beta$ -D-グルコシル残基を加水分解し、 $\beta$ -D-グルコースを遊離させる。、酵素制御: 2,4-ジニトロフェニル-2-フルオロ-2-デオキシ- $\beta$ -D-グルコピラノシドおよびタウロコール酸ナトリウムによって阻害される。、機能: 食物性フラボノイド配糖体の腸管吸収および代謝に関与すると考えられるグリコシダーゼ。植物性エストロゲン、フラボノール、フラボン、フラバノン、シアン化物など、幅広い配糖体を加水分解することができる。、PTM: N末端はブロックされている。、類似性: グリコシル加水分解酵素1ファミリーに属する。、類似性: グリコシル加水分解酵素1ファミリーに属する。 Klotho 亜科。組織特異性: 小腸に存在 (タンパク質レベル)。 肝臓、小腸、結腸、脾臓、腎臓で発現。腎細胞癌および肝細胞癌では発現が低下する。

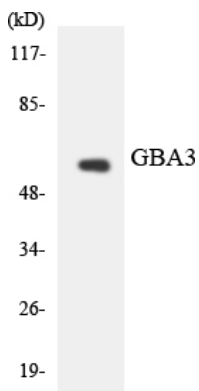
## 研究分野

シアノアミノ酸代謝;デンプンおよびスクロース代謝;

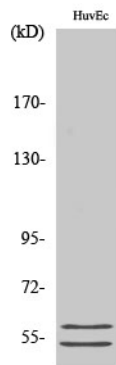
## 画像データ



GBA3 抗体を用いた HUVEC 細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンには合成ペプチドでブロッキングされている。



GBA3 抗体を使用した HeLa 細胞の溶解物のウェスタンブロット分析。



1: 500 に希釈した CBG ポリクローナル抗体を用いた様々な細胞のウェスタンブロット分析